

シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

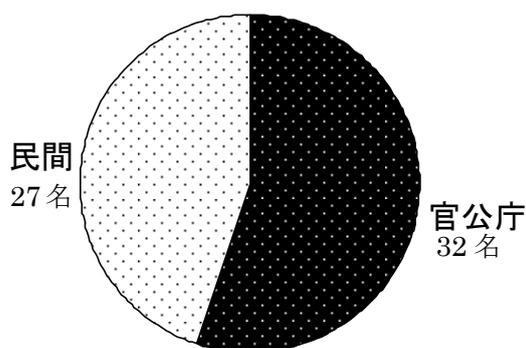
A0 入試始まる

A0 (Admission Office) 入試とは自己推薦入試のことで、日本大学理工学部土木工学科へ入学を希望されるすべての方に開かれている入学制度試験です。この入試は、学力試験だけで計りきれない様々な能力、活動、人物を評価するために設けられております。将来の夢や希望を持った目的意識の強い方、自ら問題を発見し、解決する方法を考え、得られた成果や考えたことを分かりやすく論理的に説明できる方を求めています。

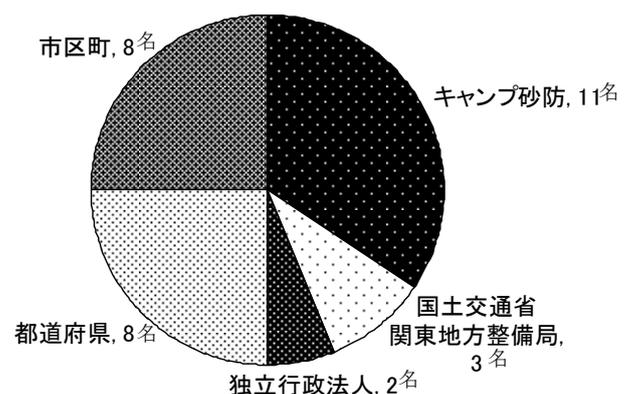
志願者は志望学科に出願する前にエントリーを行います。エントリー後、理工学部の A0 入試担当者との対話をとおして、各学科への理解を深めてから、志望学科を決定いたします。試験は、事前に出題する課題の成果発表や質疑応答、自己PR、ミニ講義などを実施します。選考には、各学科の入学者受け入れ方針に基づいて、時間をかけて志願者を総合的に評価します。エントリー期間及び出願期間は終了致しましたが、試験日は10月19日、合格発表は10月20日の午後12時に行われます。

平成20年度の夏期実習(インターンシップ)について

平成20年度の3年生が参加している夏期実習が無事終了いたしました。今回の実習参加者は民間企業27名(25社)、官公庁32名(15機関)で実習先内訳は下図の通りです。夏期実習に参加した学生にとって、ここで得た経験や知識は今後の人生にとって大きな役割を果たすことになるでしょう。



実習先の内訳



官公庁の実習先の内訳

土木スポーツ大会開催

9月27日（土）に船橋キャンパスにおいて、平成20年度土木スポーツ大会が開催されました。これは、毎年土木工学科の学生が幹事となり企画・運営を行い開催されるものです。当日は、フットサルやソフトボール、バレーボールといった全8競技が行われました。開会式は9時45分に行われ、10時から競技が開始されました。9月下旬のスポーツに適した気候の中、学生達は競技に熱中し、会場を盛り上げていました。17時に閉会式が行われ、その後、懇親会がファラデーホールにて行われ、軽食やビンゴ大会で大いに盛り上がりました。



フットサルの試合の様子



ソフトボールの試合の様子



懇親会の様子

羽田空港 D 滑走路建設工事現場見学会を実施

9月22日（月）に授業の一環として、学部2年生を対象とした羽田空港 D 滑走路建設工事の現場見学会が開催されました。現場見学会には、学部2年生を中心として学生34名が参加し、D滑走路建設工事の様子を見学、また新国際線ターミナル工事の概要について国土交通省の本学OB技師の方々より説明をしていただきました。



OBの説明を聞く学生達

土木学会 平成20年度全国大会

9月10日（水）～12日（金）に東北大学の川内北キャンパスにて、土木学会平成20年度全国大会が開催されました。教員、学生合せて多数の論文を発表し、金子先生、高橋先生が座長を務められました。なお9月11日には、日本大学工科系校友会宮城県支部会員と日本大学土木系3学部4学科との懇談会が仙台エクセルホテル東急にて開催されました。



懇談会の様子

日大土木Who's Who

日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーです。今回は日本大学高等工学校の出身で測量学の第一人者である亀田晴二先生です。

No. 13

氏 名：亀田 晴二

専門分野：測量学

在任期間：1930（昭和5）年から

略 歴：

1906（明治39）年11月10日	群馬県邑楽郡赤羽村で誕生
1927（昭和2）年9月	日本大学高等工学校入学
1929（昭和4）年8月	日本大学高等工学校卒業
1930（昭和5）年	同学着任
1935（昭和10）年10月	「トラバー測量」出版
1937（昭和22）年	「实用測量学」出版
1937（昭和22）年7月	「最新曲線表」出版
1951（昭和26）年12月	御逝去



亀田先生は現在の日本大学理工学部の前身である、日本大学高等工学校に21歳の時に入学し、当時の測量学の権威であり東京帝国大学工学部土木工学科と兼任で教鞭をとられていた関信雄先生の下指導を受け、2年後の昭和4年同校を卒業された。

その際、当時学監であった円谷先生から「亀田君は優秀であるから大学に残したい」との誘いがあり、卒業後も大学に残り教鞭をとられた。

当時の講義は戦前・戦中・戦後と動乱の中での時期であり、それに伴って講義の中心も大きく変わっていたようである。戦前・戦中期には測量学の統括を参謀本部が管理していたこともあり軍事的な測地的な講義が中心であった。戦後はより現状に即した講義が行われた。測量実習は先生が着任されたとほぼ同時、東急電鉄が二子玉川まで延線した頃に実習場が代官山から二子玉川に移され、当時東急電鉄社長の五島慶太氏の御協力もあり多摩川の土手を利用して行われた。現在は船橋キャンパス内に移され測量実習センターを中心に実習が行われている。

また、先生は学問書が中心であった当時において珍しい実用書を発行されていた。これらの本は実用書としての評判が高く、特に昭和22年に発行された「实用測量学」は昭和33年の第13版まで、「最新曲線表」は昭和35年第七版まで再版が繰り返されている。

※亀田晴二教授は、測量を長年担当されてきた亀田和昭元教授の御父上であります。



（左）最新曲線表 （右）トラバー測量

最近の教員活躍状況



島崎敏一教授が8月5日～26日まで自転車道の計画手法の研究のためドイツへ行きました。ダルムシュタット工科大学のボルツ教授を受け入れ教授として、フライブルグ市役所、ミュンスター市役所、ケルンの BAST（ドイツ連邦道路交通研究所）、ブレーメンの ADFC（一般ドイツ自転車クラブ）を訪れ、それぞれで話し合い、資料を収集しました。今後、これらの資料を研究に役立てていく予定です。なお島崎先生が訪ねた都市の写真は、下記の HP に掲載されておりますので是非ご覧ください。

http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp/~shimazak/j/prof_j/monologue/fra0808_j.php



岸井隆幸教授、大沢昌玄助手が、韓国全州市の国立全北大学にて、8月21日～23日に開催された、International Symposium on City Planning 2008 に出席し、土地区画整理事業に関する論文を発表しました。土地区画整理の技術は、海外にも輸出されており、質問や意見交換が活発に行われました。また日本都市計画学会常務理事でもある岸井教授は、各国の都市計画学会のエグゼクティブミーティングに出席しました。



羽柴秀樹准教授が8月6日～9日に、米国・ミルウォーキーにて開催された Ecological Society of America (ESA) Annual Conf. 2008 に出席し、衛星観測による都市内緑地の調査研究に関する研究発表を行いました。



後藤浩専任講師が、9月3日～9月5日にマルタ共和国にて開催された「Sustainable Tourism 2008」に出席し、「日本における海水浴場の利用状況に関する現状調査」（竹澤三雄名誉教授らと共著）と題して口頭発表を行いました。

出前講義の状況



下原祥平助手が、9月22日に東京都目黒区の私立日出高等学校にて一年生を対象に地球環境にやさしい自動車交通への取り組みというテーマで出前講義を行いました。地球温暖化の原因となるCO₂の排出削減に、土木工学、特に交通分野が貢献している取り組みの紹介をしました。土木工学が地球環境問題に寄与していることを理解して頂けたようです。また、大学生活の様子なども併せて紹介し、大学への関心も高めてもらえました。

なお、7月8日には花田和史教授が千葉県立佐原高等学校で「地震との戦い」と題し、8月1日には大沢昌玄助手が千葉県立市川工業高校で『『都市』を眺め、そして創る』と題し出前講義を行いました。

土木工学科の出前講義プログラムは、http://www.cst.nihon-u.ac.jp/academy/civil_all.html に掲載されています。是非ご活用ください。

理工学部、土木工学科の動き

理工学部長に滝戸俊夫教授(物質応用化学科)が就任しました(10月1日付)。

土木工学科教室主任が10月1日をもちまして、岸井隆幸教授から松島眸教授に交替いたしました。教室主任退任及び就任の挨拶は次号にてお届けいたします。